

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891500080		
法人名	社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団		
事業所名	五色グループホーム		
所在地	洲本市五色町都志大日707		
自己評価作成日	平成25年1月21日	評価結果市町村受理日	平成25年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市立花町2丁目 13-32		
訪問調査日	平成25年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

五色グループホームは1ユニット5名の家庭的な生活環境で、洲本市五色健康福祉総合センターの敷地内にあり、診療所や特別養護老人ホーム、運動センター等と隣接し、医療機関への連携や緊急時の応援体制は速やかにできる立地にある。
 「明るく元気な笑顔を絶やさず」という運営理念のもと、認知症があっても役割や楽しみを持ち、生き甲斐のある自立した生活をその人らしく営むことができる、入居者、家族、職員が「笑顔」の絶えないホームを目指している。また、個々の入居者の方々が暮らしてきた地域とのつながりを大切に、外出は知人に会いに出かけたり、ふるさと訪問や墓参りなど希望に沿った個別外出を中心に行っている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

洲本市から兵庫県社会福祉事業団が、指定管理を受け運営している事業所で、事業団としての総合力が、この施設運営にも生かされています。育てられた人材、保有する能力を余裕をもって活用されていることは、利用者にとっては幸せなことです。入居者の個別支援、生活の活性化に生かされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を見るところに提示し、常に意識づけをしている。特に個別の希望外出を中心とし、入居者の生活の活性化を図っている。	職員との会話の中で、理念に関する話が沢山でいることから、実践への日常化、取り組み姿勢がうかがえました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	買い物や行事は個々の入居者が生活していた地域へ出かけている。出先で近所の方と話す機会もある。五色・サルビアホールやひろいしの里に出かけて紙芝居の披露や行事の参加など交流を図っている。	隣接する関連施設や、地域行事への参加を通じての地域住民との接触や交流を、機会をとらえて実施されていることを確認しました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成25年2月2日に開催する第3回地域交流セミナー(洲本市五色健康福祉総合センター主催)にスタッフとして参加する予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月に1回の会議を実施し、入居者の家族や民生委員の方から意見・アドバイスをいただきサービスに反映している。その経過を職員会議で報告し、職員間で情報共有すると共に、センターでのサービス向上委員会でも課題を検討し、年1回の利用者・家族アンケートを実施し、集計結果を公表してサービスの質の向上に努めている。	自己評価で述べられているように、いろいろ実施されており、施設入口に掲示したアンケートの公表などオープンな姿勢には好感がもてました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき実情を報告している。	この事業所、五色健康福祉村として発足した全体施設発足の歴史も地域の関係機関との連携・ネットワークからであり、基本方針が継続されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサー付きのドアは誰でも出られるように番号を提示している。1か所は日中開放している。落ち着いた様子が見られた場合は付き添うなどして抑制をしないことを職員が周知徹底している。	余裕をもった体制で、目が届き、それが個別支援に生かされています。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	7月下旬、1月中旬の年2回高齢者虐待防止に関するアンケートを実施した。入居者の行動障害への抑制およびスピーチロックについて会議で話し合い、虐待をしていないか確認をしている。	研修と啓蒙を重ね、虐待となることはしないと徹底されており、スピーチロックの防止など、利用者個人の意味、人権の尊重に繋がられています。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	6月15日に開催された成年後見制度の研修に管理者が参加し、研修の内容を職員会議で他の職員に伝達している。	今後ありうる事例への対応に準備がされています。	社会全体がこの問題に未成熟の段階であるので、お互いに知恵を出し合いレベルアップをして取り組み前進しましょう。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は「重要事項説明書」「契約書」の説明を念入りに行い、同意のもと入居いただいている。特に急変時や医療が必要になった場合などの思いを伺い、丁寧に説明をしている。	同左の取り組み状況を書類などからも確認しました。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をはじめ、苦情受付窓口などを設置し、事業所には意見箱を設置している。利用サービスについてのアンケートを実施し、アンケート結果や要望の回答については事業所内に掲示すると共にご家族に郵送した。面会時にコミュニケーションを図り、意見や要望を伺うようにしている。	利用者・家族、の意見・要望、は勿論のこと、外部とのコミュニケーションのPDCAが、できています。	「この施設の売り」の一つであり、永遠の課題でしょう。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で意見交換し、疑問点や検討内容について話し合う機会を設けている。また、その内容を運営に反映している。	職員それぞれの得意技を生かしている事例を確認し、よいコミュニケーションができていると判断しました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規・嘱託職員については「人事考課制度」により自己評価および自己の課題を整理し、上司と育成面接を行う。 日々雇用職員については年2回の個別面談を行うと共に資格取得を奨励している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「働きやすい職場づくりと人材育成を図る」ことを基本とし、計画的に職員研修の受講を促し、意図的OJTの強化を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームひろいしの里との交流や情報交換、五色・サルビアホール内での研修や行事の参加等を通じてサービスの質の向上に努めている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者に関わる際には、不安なことや要望などがないかを自然の会話から聴くようにしている。また、入居者同士の関係を大切に見守るように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に初回のサービス導入時は家族の不安が大きいため、家族の話を傾聴しながら生活に対する意向や希望を伺い、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居が困難な場合は、他のサービスを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として調理や家事などの知恵を職員が教わり、手順は職員が伝えるなど共同作業を中心としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向に応じて必要なものを家族と相談しながら希望に応じ、満足感が得られるようにしている。こまめに本人の気持ちを家族に電話等で伝えている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の馴染みの関係が途絶えないように、入居者の住み慣れた地域への外出や住民との交流を図る外出を月に数回実施している。面会も自由に来ていただいている。	入居後、介護度軽減等、利用者の状態の好転事例があることをみても、良好な事業の運営実施状態にあると判断しました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士を見極め、食事の席や外出などのメンバーに配慮して良好な関係を保っている。また、全員で屋外を散歩したりレクリエーションをしてコミュニケーションが図れるように意識して取り組んでいる。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	共に生活をした入居者が退居した場合、家族の許可を得て入居先に訪問する機会をつくるようにしている。12月16日に退居された方がおり、12月24日に仲の良かった入居者と一緒に面会に行ってお互い喜ばれていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員で話し合い、統一したケアを提供している。他の入居者には本人・家族から情報収集して意向に沿ったケアができるよう努めている。	密度の濃いコミュニケーションから得られる利用者の思いや意向から、循環して向上の軌跡を描くPDCAがなされていると確認できました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴シートを用いて聞き取りしている。また、在宅で担当していたケアマネジャーと連携し、サービス利用の経過などを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を記録に残し、状態の変化がわかるようにすると共に、「気づきのノート」を有効活用し、一人ひとりの有する力等の把握に努めている。毎月の職員会議で全入居者の変化について話し合う機会を設けている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議時に入居者と家族に生活に対する意向・要望を伺い、スタッフの意見も反映しながら自立支援を目指したケアプランを作成している。状態に変化がみられたときはモニタリングをしてプランを変更している。	個別支援という視点で介護計画が策定されモニタリングを通じて計画変更等が推進されており、重点取り組みの一つとなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の業務日誌に状態・変化を記録している。また、職員間で情報共有しながら毎月モニタリングを実施し、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	五色・サルビアホール、グループホームひろいしの里でのボランティアとの交流や行事に積極的に参加している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館や美容院の利用、スーパーマーケット・衣料品店等への買い物、公園散策等の希望に応じて支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は近くの診療所で、緊急時はすぐに受診できる体制である。また、入居前に通院していた入居者は継続し、その他の方には家族にも説明をして同意をいただいている。	同左の状況を、書類などで確認しました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康管理については併設事業所の看護師に随時相談している。定期受診時や変化がみられたときは医師に報告し、連携を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者はいないが、備えとして受診時に個々の入居者についてこまめに状態報告し、医師の指示のもとチェック用紙等を活用して経過観察をしている。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族に急変時の対応について説明し同意を得ている。また、状態に応じて医師・家族との連携を密にしている。今年度中にターミナルケアについてのマニュアルを作成する予定。	最近話題のエンディング・ノートの形ではないが、日常の利用者・家族とのコミュニケーションの積み重ねで把握されており、対応指針・マニュアルが準備されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者が応急手当普及員講習に参加し、学んだことを他の職員に伝達し、実践力を養っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している健康道場との協力体制はできている。避難経路のマニュアルは目の届くところに保管して会議で周知している。年度内に健康道場と合同で防火・避難訓練を実施予定である。	非常時の対応がしやすい環境と施設構造の建物であり、他施設との合同訓練は毎年3月に実施されています。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーのマニュアルを供覧し、目の届くところに保管している。また、「あったかサポート実践運動」というツールを用いて人権の擁護等について自己評価・相互評価を実施している。	職員スタッフ自身のレベルアップこそ、相手（利用者・家族）への尊重に繋がるというツールの「あったかサポート実践運動」による人権擁護等について自己・相互評価を実施しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話のなかで希望を傾聴し、自己選択・自己決定できるような言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者や家族の意向を尊重し、無理強いせず、その方のペースに合わせた生活をしている。日課はなく、職員がその時々に合わせて対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を買いに出かける、好みの服を選んで着る、化粧をするなど、その方に合ったおしゃれを楽しむことができるよう支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯炊きや汁物作り等の簡単な調理はホームで行い、準備や後片付けも入居者と職員が一緒に行っている。自分たちが畑で作った野菜が食卓に上がることもある。	同左のとおりであることを、現場などで確認しました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェックや水分チェック、毎月の体重測定は全入居者を対象として行っている。必要に応じて排泄チェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック用紙を作成し、個別のケア方法を提示してケアを徹底している。また、周知できているか定期的に確認をしている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間のおむつ使用者なし。センター方式の24時間シートや排泄パターンを把握するためのシートを活用し、排泄の自立支援に努めている。	同左の取り組みを、資料・面談の中で確認しました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活のなかで運動量・水分量を増やしたり、腹部マッサージをして自然排便を促している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は入居者の希望に添って毎日実施できる体制とし、少なくとも隔日には入浴できるように配慮している。	同左を、資料・面談の中で確認しました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を充実させることにより、夜間の安眠につなげている。現在は入居者全員、ほぼ毎日安眠できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬に日付・名前を書き細心の注意を払っている。服薬説明書と飲んでいる薬を写真に収めて周知できる場所に保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から本人の趣味や日課を継続できる環境をつくっている。散歩、買い物、レクリエーションなど積極的に支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望に合わせた外出、家族・知人からの情報による外出を行っている。全員が月に3回以上外出することを目標として掲げている。また、天候の良い日は屋外を散歩して自然とふれあう機会をつくっている。運営推進会議で外出件数をデータ化して報告している。	目標年間150回(利用者5人の小規模GHであり1人当たり30回に達する)を目標とされている外出支援は、セールスポイントの一つであり、特に遠方への外出にも努力されています。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理している入居者はいない。買い物の際は職員が見守りながら、入居者が代金を支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも手紙や電話を代行することは可能であることを伝えている。また、伝言を頼まれたときは家族へ連絡している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした空間の所々にソファを配置し、「自分で選択できる場所」「落ち着ける場所」になるよう設えを工夫している。テーブルにはいつも季節の花を生けている。	全てが広々とし、明るく・便利を満足させうる環境で、居心地のよい空間形成の絶え間ない努力を感じました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファのレイアウトを工夫し、一人で過ごせる場所を確保している。入居者の好む空間は、利用者・職員共に理解している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に写真や誕生日カードを飾ったり、好きな物を置いたりして、居心地の良い空間づくりに努めている。居室のレイアウトも自分で移動しやすいように、また、プライバシーが確保できるように配慮して家具等を設置している。	同左を、確認しました、共用空間に面した居室配置は安心ですごしやすい。利用者が自発的に掃除を手伝う姿がみられ、ほほえましい光景でした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには張り紙をしてわかりやすくしている。物の場所を変えることで混乱しないように定位置(目につきやすい場所)に戻すことを徹底している。衣類や茶碗、箸等には名前を書いて自身で取り出せるようにしている。		